

## エネルギー政策に関する意見箱

1. 氏名	税所昭南
2. 年齢	年代（70代）
3. 性別	男
4. 連絡先	
5. 御意見及びその理由	<p><b>意見：</b></p> <p>経済大国世界第3位の日本においては、今日においては言うまでもなく、エネルギーの長期的展望においても原子力の選択肢を絶対に失くしてはならない。国力の維持発展のために原子力を重要な安定した良質のベース電源としてエネルギー基本計画に明記し、原子力の必要性を国民に訴え、理解を求めるべきである。</p> <p>日本は、二度と起こしてはならない重大事故を起こしてしまったが、その反省と貴重な教訓を活かし、原子力の安全対策や廃炉措置等で世界の原子力発電の健全な発展に貢献し、原子力の平和利用で先導的な役割を果たすべきである。</p> <p>現在、世界の原子力発電は、稼働中 432 基、建設中 63 基、新規計画 89 基に上り、無視できない電源となっている。特に原子力を積極的に推進している国の一つが中国である。</p> <p>こうした原子力の潮流を見極め、日本は、これまで培った原子力の経験と実績を活かし、原子力発電の安全運転の確保と安全性・信頼性・経済性の更なる改良改善を目指した次世代型原子力発電の開発推進で国際的に貢献すべきである。</p> <p>原子力は、人間によってそのリスクも十分に認識し、安全に制御できるクリーンなエネルギーで、電力の安定供給と電力の質を確保できるベース電源として今後の高度な電化社会の大動脈となる。特に少資国日本にとっては、国力の維持発展とエネルギー安全保障に原子力は必要不可欠であり、ポピュリズムにより原子力の火を消してはならない。</p> <p>再生可能エネルギーは、現在の技術レベルではエネルギー効率も悪く、変動電源であり、電力供給の量的及び質的限界がある。また、世界各地で異常気象による災害が発生しているが、将来においては予測できない予想外の事象や災害も予想され、そうした事態に耐震・対津波等で対策をとっている電源は原子力だけで、災害時の電力の安定供給が可能であり、避難場所としても利用可能である。</p> <p>原子力はクリーンなエネルギーとして地球温暖化防止でも貢献でき、人類の高度なデジタル電化社会の持続的発展にとって不可欠なエネルギーであり、日本が、将来に亘りエネルギー基本政策において原子力の選択肢を堅持し、安全かつ信頼性と経済性がある原子力の発展を目指して国際的に貢献していくことを切望する。</p> <p><b>理由：</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>化石燃料資源の枯渇はいずれ到来する。長期的エネルギー政策として化石燃料発電には頼れない。日本はエネルギー資源を全面輸入に頼っており、一次エネルギー自給率も 7%台で低く、安定したベース電源の確保は日本にとって喫緊の課題であり、長期的エネルギー戦略としても原子力の選択肢は不可欠である。</li> <li>再生可能エネルギーは、現在の技術ではエネルギー効率も悪く、発電コストも高く、更に電圧や周波数の変動により電力の安定供給及び質の確保ができない状況であり、現段階で再生可能エネルギーの比率を高めることは、国民負担が増大し、取り返しのつかない禍根を残す。電気料金の固定価格買取制度は問題であり、その比率を上げることは国民を騙し、お金を巻き上げる詐欺的行為とも言える。</li> </ol> <p>当分は、技術開発に投資し、その画期的な成果が得られ、変動電源による電力の量的、質的限界を克服し、電力の安定供給が実現できた段階で、その比率をどの位上げるか検討すべきである。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>ポピュリズムによる自国第一主義が台頭し、世界情勢は不安定であり、地域紛争や化石燃料資源の争奪戦が続発する恐れがあり、化石燃料の高騰及び調達難の時代が到来することも予想される。原子力はこうした事態に対応でき、エネルギー安全保障の確保に不可欠なエネルギーである。</li> </ol>

- |  |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|--|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|  | <p>4. 原子力発電施設は、自然災害（大雨、台風、地震、津波、火山爆発等による災害）に耐えうる最強の施設である。最悪の場合、火力・水力発電設備、再生可能エネルギーの発電設備は破壊され、残るのは原子力発電設備だけで、災害復旧に電力の供給も確保でき、場合によっては災害時の被災者の避難場所として利用できることも念頭に入れておくべきである。</p> <p>5. 世界各地で異常気象による災害が発生しているが、地球温暖化防止策としても原子力はクリーンなエネルギーで貢献できる。<br/>太陽光、風力発電はクリーンと言われるが、変動電源の弱点としてバックアップ電源が必要で、火力発電への依存で地球温暖化防止には限界があることを付け加えておく。</p> |
|  |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |

以上